

さらなるごみ減量・資源化に向けた3つのプランについて

(意見交換会)
平成27年11月~12月
市川市 清掃部

現状の課題

●本市には最終処分場がない

- ・クリーンセンターから出されたごみの焼却灰と破碎残さの全量を、銚子市や秋田県、山形県などにある最終処分場へ運搬して埋め立てている。
- ・最終処分場は迷惑施設であり、本市のごみ処理は処分先の自治体や住民の理解のもとに成立。
- ・市内に最終処分場の新設は困難。
- ・最終処分量削減のため継続的なごみ減量努力が必須。

●クリーンセンターの老朽化

- ・平成6年稼働開始のクリーンセンターが老朽化し、建て替え時期が迫る。現クリーンセンターの稼働予定は平成35年度まで。
- ・最大限ごみの減量を図り、次期クリーンセンターの施設規模を縮小し、建設費や運営費の削減が必要。

●分別排出が不十分

- ・燃やすごみに資源化可能なプラスチック製容器包装類、紙類及び布類が多く混入している。

今後の方向性

さらなる
ごみ減量
・資源化
を図る

対策

1 家庭ごみの有料化

- ・ごみを出す量に応じて、ごみ処理手数料を負担する制度。
- ・ごみを減らせば料金が安くなるという動機づけを活用した減量の促進。
- ・指定ごみ袋の販売価格に、ごみ処理費用の一部を含め、ごみ処理手数料を徴収。
- ・料金水準は、指定袋1ℓあたり 1円~2円程度、45ℓ袋1枚で 45円~90円程度の市町村が多い。

2 戸別収集方式の導入

- ・戸建住宅の建物ごとに収集する、戸別収集方式の導入。

3 ごみ収集回数の削減

- ・燃やすごみ : 週3回 → 週2回
 - ・燃やさないごみ・有害ごみ : 週1回 → 隔週1回
- などを想定。

期待される効果

①ごみ減量と分別の促進

- ・家庭ごみ有料化実施市町村では10%~20%前後の可燃ごみの排出抑制効果。
- ・ごみ処理経費の削減
 - ◎次期クリーンセンターの経費削減
 - 建設費約10億円
 - 運営費約10億円(20年間分)

②手数料収入を活用した市民への支援策の拡充

- ・コンポスト容器購入費の補助拡充。
- ・集団資源回収団体への支援拡充等。

③受益に応じた負担の公平化

- ・ごみ減量に努力する人とそうでない人の負担を公平化。

④排出者が特定されやすく、ごみ減量・分別に対する意識が向上し、ルール違反が減少。

⑤ごみ集積所の維持管理に係る市民の負担軽減

⑥高齢者等のごみ出し作業の負担軽減

⑦ごみの排出機会が減り、ごみ減量・分別が促進。

⑧ごみ排出量の減少に対応して、収集の効率性が確保され収集コストを抑制。